

平成20年第21回

(平成20年11月12日)

北広島市教育委員会会議録

北広島市教育委員会

(議 事 の 経 過)

◎日程第4 協議事項 北広島団地内小学校の新たな適正配置について

○委員長(村山 邦彦) 休憩を解き、再開いたします。

協議事項、を議題といたします。

前回の教育委員会会議では、統合に関することについて協議を行ってきました。

児童数の減少と統合の必要性ですとか、統合の意義、小規模校の課題、そして統合後の学級数と教員配置、統合の組み合わせなどについて協議を進めてきましたが、教育委員の皆さんで、前回の協議を踏まえて、特に、お話ししておきたいということがありましたら、出していただきたいと思います。

○教育委員(麻生 敏子) 統合の理由として、学校教育本来の役割を果たすというスタンスに立って、子どもにとってどのような教育環境の中で育てるのが一番良いのかということを考えて整理していくことだと思います。

○教育委員(長谷川 しづ) そういう意味で、統合したことによってどんなメリットがあるのかについて考えてみました。多くの子どもと触れ合うことによって、学力だけではなく、人間性や社会性が育まれていくと思います。いろいろな友達やたくさんの先生との関わりを通して、相手の考え方や立場を理解しながら、自分の考えを一層深めることができるようになるし、お互いに、刺激を受け合って社会性や協調性が身についていくようになると思います。それが、学校の規模が小さいと、いろいろな人間関係が作りにくくなると思います。教育効果というのは、規模が小さいと得にくくなるのではないかと思います。

○教育委員(石井 雅恵) 私も小学校5年生のときに学校が統合しました。その時に、今までは体育の時間にドッジボールなどのゲームができなかったのですが、統合することによって女子だけのチームができ、いつもは男子の中に入っていて逃げるだけで精一杯だったので、そういう運動のこととかもあり、刺激があって、成績が上がったように思います。

○委員長(村山 邦彦) 学校規模ないし学級規模がある程度維持されないと、教育活動もなかなか展開できない側面もあるかと思います。

○教育委員(長谷川 しづ) 指導する側と受ける側というふうにと考えると、理解の程度によって分けて指導するとか、グループ別の学習など少人数で授業するということも、とてもやりやすくなると思います。人数が多くなることによっていろいろな活動の変化が出てくると思います。いかがでしょうか。

○教育委員(石井 雅恵) そうですね。選べるようになりますね。大きいと、そのままできる

こともあれば、グループに分けて先生方がみることもできます。少ない場合は、少ないだけになってしまいます。

- 委員長(村山 邦彦) 少人数の良さもあると思いますが、概して支障が出る面が多いような気がいたします。
- 教育委員(麻生 敏子) 今皆さんがおっしゃったようなことを生かして、集団の輪の中で子どもたちが学んでいくということの大切さ、そして子どもたちが切磋琢磨していくということで成長していただければ一番良いと思います。
- 教育委員(石井 雅恵) 緑陽小学校と高台小学校の統合は、統合したとしても適正規模に満たないのではという意見があります。確かに、12学級を下回ると予想されていますが、現状の極めて少ない児童数から、統合して少しでも大きい集団の中で教育を進めるのがより良いと思います。活動に幅が出ると思います。
- 教育長(白崎 三千年) 統合によるメリットとかデメリットの比較の中で論議してきています。それはそれで、団地の中の小学校に限って、校区の集団で教育活動を展開するという教育効果、そのための教育環境を整備するという、こういう観点が根底ですから、それはそれで良いと思いますが、説明会の折に盛んに言われていることは、小規模校あるいは複式学級という状況が何故悪いのかという疑問がかなり出されていました。

現実に北海道にはかなりの数の複式学級がありますし、小規模校は小規模校の良さがありますが、一方的な視点だけでこれを決めようとしているわけではありません。今、現実に小規模校化している団地内のそれぞれの小学校は、それぞれ特色を持って先生方も熱心に教育活動をされていて、教育効果がさらに高まっているというお話をいつもしていますし、私ももそのように見させていただいております。前回も少し私のほうから触れましたが、教育委員の皆さんと結果は同じことなのですが、一方的な論理だけで決めたのではないというお話を、さらにより良く子どもたちの人格形成を図る、子どもたちの成長のために教育的な効果を上げるための教育活動を営むという観点から統合するということです。それは通学区域審議会の答申の主旨ですから、それを訴えてきております。ただ、それだけではなくて、その背景には、団地内の第一住区と第二住区、第三住区と第四住区のそれぞれの学校、4校を2校にするということは、無理のない範囲なのです。単にメリットがあるからデメリットがあるからということではなくて、より効果を上げるために統合するのだということを強調して説明し、私も挨拶の中でその都度このことを強調してお話をさせていただいています。そのへんの理解を、この前もお話しましたように、中間答申を得た段階での説明会では理解されたというふうに私どもは捉えています。

- 委員長(村山 邦彦) 学校は、ある程度の教育活動を展開するために、一定の規模は必要であります。ただ、多学級になれば良いというものではなく、子ども一人ひとりに目が届く手厚い教育をするために、多学級であっても尚且つその子どもに配慮できるような教授方法をとっていかなければなりませんし、学校側でも苦労はあると思います。その必要性も当然あると思います。

子どもが著しく減少して、それに伴って統合の必要性が出てくるわけですが、統合そのものは、通学区域審議会の答申にもありますように、統合の必要性は多くの市民の方がある程度理解されているのではないかと思います。現状のままでいきますと、さらに児童数が減少して、活気のある教育活動が難しくなると私たちは思います。

統合後の教員数についても関心を持たなければならないことだと思いますが、仮に、統合された場合に、統合後の新しい学校の教育体制というものがどのようなかたちで変化していくのか、これは勉強会でいろいろと議論してきたところではありますけれども、改めて事務局に教えていただきたいと思います。

今の若葉小学校あるいは広葉小学校の教員配置と比べて新しい学校の教員配置はどのように規模が変化していくのか、そのあたりを教えてください。

○教育施策推進参事(工藤 正) 学級編制と教員数についてですが、北海道では小学校及び中学校の道費負担の教職員の配置基準を定めておりまして、教員、養護教諭、事務職員の配置方法をそれによって定めております。基準は学級数と、一部児童数に置いております。

例えば、6学級で児童数が100人を越える場合は、小学校については校長を含めて教員は9人が基本となります。12学級になりますと、15人になります。その他、学校の状況などによりまして、別途北海道では加配教員を配置する制度も設けております。

○教育長(白崎 三千年) そういう意味で言うと、これも通学区域審議会でかなり議論され、説明会の中では、統合は単なる子どもの教育的効果ということもあるけれども、学校運営上一人でも先生が多く配置されていることによって、先生方の実践が深まるし、お互いに協力し合うところは協力し合えるようになる。校務分掌等での役割分担もかなり質的に高まるだろうということと合わせて、先生方が研修をしながら、お互い学び合いながら子どもたちのためにどうするかということでやっていきますので、そういう意味では統合によって教員が多く配置されるということはかなり意味があると思います。

○委員長(村山 邦彦) 特にここに関してなければ、この後、校舎の選定等について議論を深めていきたいと思います。ご意見等はございませんか。

(意見等特になし)

それでは、校舎の選定について、選定理由などそれぞれ2校同士で、新しい学校の校舎にどちらの施設を使ったらふさわしいかという、そのあたりの議論を行っていただきたいと思えます。

○教育委員(長谷川 しづ) 広葉小学校と若葉小学校の統合で、校舎の建設年度や配置などを選択の要素としていることに対し、無理があるのではないかという意見が出されていましたが、今教育長からお話がありましたが、児童数の状況を考えると、より教育効果が上がるという観点から、認識の問題ではありますが、統合は望ましいのではないのでしょうか。その上で、何度も言われておりますが、児童に無理のない範囲という考えから統合の組み合わせを考えてきました。だからこそ、統合を前提にどちらの校舎を使うか比較しているということですから、そういうことを確認した上で議論を進めていくと良いと思います。

- 教育委員（麻生 敏子） 現状でどちらの校舎を使用したら良いのか、子どもの学習活動や教職員の指導などの学習環境にとってどちらがより良いかを考えていくべきだと思います。
- 教育委員（石井 雅恵） 現状の校舎を使用する前提で考えていきたいと思います。
- 委員長（村山 邦彦） 現状、高台小学校と緑陽小学校にしても広葉小学校と若葉小学校にしても、それなりの施設の特徴があります。マイナスの面やプラスの面を抱えている学校もありますが、それでも校舎はそれぞれであると思います。ただ、実際に統合をする組み合わせの上でどちらかの校舎を使うとなれば、現状のかたちでどちらがより良いかという議論にならざるを得ません。選択は、そういう面から限界が出ると思います。
- 教育長（白崎 三千年） 確認ですけれども、あくまでもこれも説明会で説明してきていることですけれども、例えば教育委員会の方向性を教育委員で話し合って出したのが若葉小学校と高台小学校の校舎を使用するという方向でしたが、その広葉小学校と若葉小学校の比較、緑陽小学校と高台小学校の比較という問題を分けたかたちでいかないと、向こうはこうなっているのにこっちはこうだとすると難しくなってきますので、あくまでも通学区域審議会の答申が若葉小学校と広葉小学校を統合するのが望ましい、緑陽小学校と高台小学校を統合するのが望ましいということを基本にして、その線を崩さないかたちでの論議をしていたと思います。
- 委員長（村山 邦彦） 先ほど、どなたかが言われておりましたが、この組み合わせを選んだというのは、児童の通学の負担からの観点で無理のない組み合わせではないかということで、方向性を出したわけです。
- 教育委員（長谷川 しづ） 距離のことを考えますと、高台小学校と緑陽小学校のことですが、緑陽小学校の子どもの中には、高台小学校に決めた場合に今よりも近くなるというお子さんがいます。逆に、緑陽小学校にすると高台小学校のお子さんがみんな遠くなってしまいうことも考えられます。
- 教育委員（麻生 敏子） 高台小学校が、二つの校区を合わせた中で丁度中間点にある距離ですから、子どもたちが通うのには一番良いのではないかということで、高台小学校を選定しました。
- 教育委員（石井 雅恵） 広葉小学校と若葉小学校の場合は、校舎の配置とか管理面とか、使い勝手などで総合的に判断したということですよ。
- 委員長（村山 邦彦） 今、石井委員から両校の校舎の配置や形状などの面についての発言がありました。こういった面からのご意見等はございませんか。
- 教育委員（長谷川 しづ） 校舎の使いやすさや児童の安全面から考えると、若葉小学校の場合は平坦ですが、広葉小学校の校舎は三列の形で、それが1本の廊下で繋がっているわけで、その中にスロープまであるという形です。こういう問題は比較するときに考慮する必要があると思います。
- 教育委員（麻生 敏子） そうですね。両校がそういう条件を持っている、また、校舎に対して大規模改修を行っています。広葉小学校は昭和63年、若葉小学校は平成6年から7年

に体育館も改修されています。そういう点からも校舎の選定の大きな理由になるのではないかと思います。

- 委員長(村山 邦彦) 校舎の建築年度、あるいはその後の改修の有無、いろいろあると思いますが、その他にご意見等はございませんか。
- 教育委員(麻生 敏子) 敷地面積を見ますと、2,000㎡くらい、体育館と校舎、グラウンドの面積を合わせますと、若葉小学校のほうが広いです。広葉小は敷地内に段差がありますので、実際の面積より利用できる面積は少ないのではないかと思います。
- 教育委員(長谷川 しづ) 広葉小学校と若葉小学校が統合した場合、400人程度の児童数が見込まれます。統合を考える会からも出されていましたが、10年後や20年後のことを考えると敷地面積が大きいほうがいろいろな可能性を持っていますから、良いのではないかと思います。
- 委員長(村山 邦彦) 長期的にこの児童数がどう変化していくのか読めない部分がありますが、一般的には校舎の面積や敷地面積が大きいほうが好条件だと思います。
- 教育委員(石井 雅恵) できるだけ広い場所が良いと思います。ゆったりと生活できるし、活動もしやすいと思います。
- 委員長(村山 邦彦) 敷地の関係が出ましたが、児童にとって学校の施設の安全性にも大きな関心を持たなければならない課題だと思いますが、他にご意見等はございませんか。
- 教育委員(麻生 敏子) 説明会で安全面でのご意見として、若葉小学校にも大きな段差があり危険だという意見が出されています。確かに、周辺の地形と比較した場合、若葉小学校にも段差があります。しかし、若葉小学校の敷地はフラットですが、広葉小学校の地形の段差は敷地内にあり、それが校舎の形状に反映されています。
- 教育長(白崎 三千年) 説明会で出されていたのは、若葉小学校のグラウンドと緑道との間に2.5mくらい段差があり、擁壁がある。その部分がかなり危険だというご指摘です。目の届かない時間帯に子どもたちが出て行ったりするときの危険性をかなり訴えられていたように思います。
- 委員長(村山 邦彦) 緑道との段差ですね。
- 教育委員(麻生 敏子) フェンスが1.5mから2mくらいありますよね。
- 教育長(白崎 三千年) 学校はできるだけ安全性が高いことが問われますが、その一つの理由で、危険なことをあげていけばそういうことを心配されるのはもっともだと思います。
- 教育委員(麻生 敏子) でも、教育の中でそういう危険な所には行かないようにということを学校や家庭が指導することが一番必要なことだと思います。
- 教育長(白崎 三千年) フェンスの強度はどのくらいでしょうか。
- 管理部長(小菅 敏博) 擁壁が組んであって、高さは2mくらいあると思いますが、少なくとも周囲にフェンスを回してあります。年数は相当経っておりますので、穴が開いている所があれば、業務主事が点検しながら補修しております。あえてお子さんがそういう所へ行くことがないように学校でも指導しますし、特別そのことが課題になったことはありません。

- 委員 長(村山 邦彦) フェンスが劣化したら、当然教育委員会の責任で即直さなければいけません。
- 教育委員(長谷川 しづ) 敷地内がどうか、敷地の外がどうかと考えると、敷地内は常に授業の中でも利用するので大変重要な問題になると思います。
- 安全面ということで、授業のことも考えましたけれども、たまたま怪我をしてしまったとか、体が弱いお子さんがいることもあると思います。そういうことを考えると、バリアフリーということがいろいろな所で言われておりますけれども、そうした設備を進めていくと考えたときにも、敷地や形状の問題が大きく関係すると思います。
- 委員 長(村山 邦彦) バリアフリーのような障害者スロープの有る無しという設計、あるいは、そういうような施設のあり方に非常に皆さん関心を持っている時代です。
- 教育 長(白崎 三千年) 団地内の4校とももとは山でしたから、北広島団地の造成そのもののように、丘陵地帯を平らにしたり埋めたりしています。そういうことから、全てがフラット状態で校舎を建設するのは無理でした。形状を生かす部分は生かしながら、フラットにできる部分はフラットにしながらということで作られてきた経過があると思います。こっこのフラットがどうだとか、高さがどうだとかで考えていくと難しさがあります。4校それぞれにいろいろな意味で、バリアフリー論でいったらどうなのだということが出てきますので、必ずしもそれだけでは決められないと思います。
- 委員 長(村山 邦彦) 今、お話を伺いましたが、高台小学校と緑陽小学校の説明会の議事録を見ますと、比較的、使用する校舎に対して意見や要望が盛んに出たということではないと思いますが、どうでしたでしょうか。
- 教育施策推進参事(工藤 正) 高台小学校区と緑陽小学校区の説明会では、校舎の選定に関する考え方について、その選定方法についての質問は、緑陽小学校区で出されているものがあります。校舎の比較という面での議論では高台小学校が望ましいと言っていますので、高台小学校のセキュリティーや安全管理の面についての意見や質問が出されています。
- 委員 長(村山 邦彦) 施設の安全性について、何かあれば後ほどお聞きします。
- 次に児童数についての意見がありますが、これについてご意見等はございませんか。
- 教育委員(石井 雅恵) 校舎に大きな欠陥がない限り児童数の多い学校が少ない学校を吸収して統合するのが当然だという意見が出ていましたし、人数では言いたくないけれども児童数の多い学校をとるほうが良いという意見も出されていました。一般論として考えると、それも理解できます。
- 教育委員(麻生 敏子) 子どもの教育環境を考えると、人数だけではなく、諸々の要素も入れて考えなければならないと思います。
- 委員 長(村山 邦彦) 石井委員が言われたように、児童数が多い学校の施設を使うのが一般的ではないかというご意見です。多くの子供が近い学校に通学するほうが安全性上も便利ではないかということもわかります。それだけを捉えれば非常にわかりやすいと思います。ただ、麻生委員が言われたように、通学距離だけを問題として選ぶと簡単ですが、校舎の配

置だとかいろいろなことがあります。また、通学距離の問題で言えば、先ほど、これまでの議論でありましたように、今回統合された場合の子どもに与える通学の負担は、そう大きな問題として取り上げなくても良いのではないかという背景があるものですから、学校の児童数だけで判断すべきではないと思います。

○教育委員（長谷川 しづ） 新しい学校を作るということを考えていかなければならないと思います。初めからそれを言っているわけですから。大きな学校が小さな学校を吸収するというのではなくて、あくまでも新しい学校を作るということを確認した上で協議していかなければならないと思います。

○教育長（白崎 三千年） 私もこれまでの全ての説明会の折に、新しい学校を作るということを説明しています。言葉で言えば、吸収合併論とか対等合併論というのがあるのですが、そのへんは説明してもなかなか、今新しい学校を作りましょうということに対して、分かりましたということは難しいのではないかと思います。

○管理部長（小菅 敏博） 長谷川委員と教育長からお話がありましたように、まさに子どもの数をベースにした意見ですとか、疑問を呈するような意見が数々出ておりました。私どもが説明会でお話させてもらっているのは、基本的には一人ひとりにとって負担になる距離かどうかとか、少なくとも吸収合併するという考え方ではなくて、学校を廃止して新しい学校を立ち上げる。校舎はまだまだ使えますし、市民の貴重な財産ですから、そういうものを有効に活用しながら、より良い環境を整備していくということとをずっと説明させていただいております。それで、広葉小学校と若葉小学校、高台小学校と緑陽小学校の組み合わせの関係を教育委員会で議論していただきまして、いろいろな角度から検討して一定の方向を出しているという説明をさせていただいております。当然、統合が具体的に進んで行く段階では、それぞれの学校に統合に関する準備委員会を設置していただき、校歌、校章、学校名などについて準備委員会でお互いに話し合いながら作っていただくということと、教育課程も一緒になって考えていく。また、通学路の問題もありますし、スムーズに統合できるようにいろいろな交流事業の関係ですとか、細かいことまで入れますいろいろなことが出てきますので、そういうものをきちんと検討整理をしていただき、とにかくより良い学校環境を整えていくということで考えております。

○教育長（白崎 三千年） これからの話は、教育委員会会議の中でその方向性がしっかりと決まった後に、新しい学校をどう作るかという機運を醸成していくことが最も重要です。その手立てというか、子どもの活動を含めて行っていくことが、子どもの教育の場ですから、非常に大きな影響を与えます。もしも、子どもたちの中でずれが生じるようなことがあれば、後々の教育活動に影響を与えますので、極めて子どもの気持ちに配慮しながら慎重にしなければなりません。

○委員長（村山 邦彦） 吸収合併か新たな施設配置かというのは、子どもに与える心理状況を含めて大きな差が出るころだと思います。

そのあたりで、ご意見等はございませんか。

- 教育委員（長谷川 しづ） そういうことの上に立って考えていくためには、周辺環境についても大切だと思います。今までお話を伺ったり、参考資料からもお伺いしたところによりますと、あの周辺に植物がたくさんありますが、とても貴重なものもあると聞きます。教材としても有効な場所だと思います。幼稚園もあります。
- 教育委員（麻生 敏子） 自然に恵まれている場所です。写真などを見せていただきましたけれども、木にはきちんと名前も書かれてありますし、総合学習とか課外学習で使えるのではないかと思います。だから、暗いと言われている所は教育委員会のほうで整備していけば良いことではないかと思います。日頃から自然に触れていけることや、自然を活用できるということは素晴らしいことではないかと思います。
- 教育委員（長谷川 しづ） 小学校の周辺環境を考えると、そう言えると思います。
- 教育委員（麻生 敏子） 他の小学校をみても、これだけ素晴らしい自然に囲まれている所は団地の中だからできることだという感じがします。どこの小学校も、団地の中は緑に恵まれたり環境が整備されたりということがきちんとされていると思います。
- 教育委員（石井 雅恵） 私は小学校のPTA役員会などで学校をいろいろと訪問しますが、役員の中では断トツに若葉小学校の周りの環境がうらやましいと言って、評判が良いです。
- 教育委員（長谷川 しづ） ご意見の中には、奥のほうが暗くて怖いという話もありましたが、奥のほうの幼稚園の園児があそこで遊ぶということもありますし、四季折々の季節感も観察できると思います。
- 委員長（村山 邦彦） 広葉小学校も若葉小学校も私の散歩コースなのですが、お互いに校舎の周辺環境としても、両方に公園があって、テニスコートや野球場があります。若葉小学校の場合は幼稚園を含めて正に学校と隣接したかたちであります。非常に望ましい教育的な環境だという感じで歩いています。団地全体として、どこの学校も他の町に比べると優れています。私はいろいろな土地に行きましたが、これだけの景観や植生や地形の起伏だとか、車道と歩道が分離されている団地の在り方などは、先導的な団地造成をされているのではないかと思います。私は素人ですが、
- そう大差ないかもしれませんが、若干、若葉小学校のほうが子どもにとってはふさわしいという感じを持ちます。
- 教育委員（長谷川 しづ） 授業の幅が広がると思います。そういう所がすぐ身近にあって利用できるということは。
- 委員長（村山 邦彦） 周辺環境についてのご意見がまだあるかもしれませんが、説明会の議事録を拝見しますと、学童クラブだとかまちづくりの面も保護者の関心が高い項目ですが、学童クラブについてのご意見等はございませんか。
- 教育委員（麻生 敏子） 先ほども安全面のお話、また説明会では学童クラブが小学校に隣接していたほうが良いのではないかという意見が出されていましたが、教育委員会の議論の中では、教育活動を行っていく上での教育環境に重点を置いて検討してきています。ですから、学校内に学童クラブがあるということは放課後の子どもの安全を考えれば一番良い

ことだと思いますが、教育委員会としては統合の場合、学童クラブを優先していくという考え方にはならないと思います。

○教育長（白崎 三千年） 優先とか優先ではないという問題ではなくて、親御さんにとっては同じ感覚になるのではないかと思います。説明会に行ってみるとそう思います。放課後の活動は学校教育の延長線上ではないのですが、親御さんにとっては、安心してお子さんが一定の時間活動できる場所が保障されているという考えは当たり前だと思います。

○委員長（村山 邦彦） 親の心情としては分かりますね。

○教育長（白崎 三千年） そうです。そこをいかに行政が配慮していくかというところがきちんとなくてはならないと思います。

○管理部長（小菅 敏博） 学童クラブについてですが、説明会の中でいろいろな意見や要望が出ておりました。例えば広葉小学校で言いますと、3回目の説明会のときに市の担当部局が実際に出席して、学童クラブについての要望内容を直接聞いてもらって、その時点での考え方を話してもらっております。統合についての結論が出た後に、もしくは統合後に、保護者の皆さんの意向を尊重して十分に協議をした上で対応してまいりたいと聞いておりますので、そのときの考え方と現在の考え方に変更はないとおさえております。保護者の皆さんに不安を与えないように、十分に協議をしながら進めていきたいとの考えを聞いております。

○教育委員（石井 雅恵） 十分に意向を汲み取っていただきたいし、早急に対応していただきたいと思います。

○教育委員（長谷川 しづ） 麻生委員のご意見がわからないわけではないのですが、私の子どもも学童クラブを利用させてもらいましたので、学童クラブの位置付けというのは我が家にとっては大きいものでした。親御さんの気持ちはよくわかるつもりです。ですから、学童クラブの場所については、広葉小学校と若葉小学校、どちらの校舎を利用するにしてもお子さんの住む場所によって大きな変化が出てくると思います。特に、広葉小学校の学童クラブについては、今の場所を変更することが必ずしも良いことだとも考えられないと思います。学校が変わったからといって、お子さんの家まで変わるわけではないですから。そう考えると、そういうこともじっくりと考えた上で保護者の方々と十分に話し合って意向を汲んでいただきたいと思います。学童クラブは重要なことだと思います。

○教育委員（麻生 敏子） 学童クラブに対しては結局不安ということで、意見が出ていましたので、それに対して教育委員会ではなくて市長部局が出席してお話を聞いたということでした。現在使われている所を使うかたちでもっていけるのではないかというコメントでしたでしょうか。そこをきちんと、統合されたら早急に整えていただくことが大切だと思います。

○管理部長（小菅 敏博） そのへんは市長部局に話をしていきたいと思います。

○教育委員（長谷川 しづ） よろしく願いいたします。

それと一緒に、広葉小学校には「おたっしや塾」というのがあって、子どもたちと交流しています。若葉小学校にもそのような活動があって、子どもたちと交流していることはとても良いことだと思います。このようなことを新しい学校ができて続けて欲しいと思います。

学校が変わったからできなくなるというのではなくて、良いことはどんどん続けていただければと思います。

- 委員長（村山 邦彦） 少子化時代ですから、上の世代と子どもたちが交流できる機会が学校の中にあれば良いことだと思います。可能な限り配慮していただければ有り難いと思います。

他にご意見等はございませんか。

（意見等特になし）

特になければ、その他の関係で、まちづくりの絡みもありますが、この辺りについてご意見等があればお願いします。

- 教育委員（麻生 敏子） まちづくりについてですが、多く意見が出されていたと思います。子どもが減少してきていて、北広島の団地だけではなく、よその町でも子どもが減少してきている問題があります。魅力あるまちづくりをしていくためには、時間がかかるわけです。今すぐ魅力的なまちづくりをしました、皆さん集まってくださいというわけにもいきません。これから時間をかけながら、子どもが減少している団地にとって楽しいまちづくりに向けた環境整備を進めていただきたいと思います。

- 教育委員（石井 雅恵） 一世帯あたりの子どもの数が少なくなっていますし、児童が今後急に増えることは考えられません。将来的に少しでも人口増につながるようになって欲しいと思っています。

- 教育委員（長谷川 しづ） そういうまちづくりをしていくということですね。

そういう意味では、校舎の跡地利用についても住民や保護者の皆さんの意見を十分に聞く必要があると思います。そして、市としてまちづくりに反映して欲しいと思います。

- 教育委員（石井 雅恵） 子どもにとって楽しいまちということで、子どもを視点にした跡地利用を考えていただければ良いと思います。

- 教育長（白崎 三千年） 跡地利用については、教育委員の皆さんの考えを出し合うことは大事ですし、統合の方向性が教育委員会として定まれば市として跡利用のことを部内で協議を進めることになっております。その際に大事なのは、保護者だけではなく、地域との関わりも強くなりますので、市民の皆様の意見を十分に汲んでいただきたいと思います。何に使うかというのはまだですが、教育委員会として要望を出す機会があれば皆様にご相談したいと思います。

- 委員長（村山 邦彦） まちづくりの問題というのは市の各部局、それから教育委員会、教育委員会は学校教育ばかりではなく、スポーツや文化の振興にも携わっていますので、まちづくりと密接です。もちろん市長部局のそれぞれが関与しているから、市全体の行政施策に関わる分野です。教育委員会だけがいろいろと言える問題ではないですが、少なくとも、教育の面から子育てにとって優れた、非常に望ましい環境の団地だと広く知れ渡れば、自分の子どもをあそこの団地に住ませたいというような考えが自ずから出てくることですから、子育ての環境づくり、まちづくりというのは非常に重要な意味を持ってきます。極端に言え

ば、団地の児童生徒数に歯止めをかけるくらいになれば、なお一層望ましいわけですが。

それから、私は団地のある地域に住んでいますが、高齢者の方だとか、いろいろなご事情があって団地の自宅を手放して札幌などに転居される方がいます。その後の家を安く買われるのだと思いますが、お子さんが居る若い夫婦の方が近隣に3件入りました。近くに小公園があるのですが、若い方が住むとそこに活気が出ます。何かしらの事情で手放す家を安く買う、経済的に所得の低いサラリーマンの方が取得するというのは良い考えだと思います。しかも、小さな就学児童の子どもたちを持っているとなれば、町内会が明るく活気づいてくるということで感心して見ています。そういう動きが将来出てきて欲しいと思います。高齢者の方に札幌へ行けというわけではないですが。

○教育長（白崎 三千年） 市政懇談会に私も同席させていただいている中では、団地の中だけではなくて、子育て支援を含めたまちづくり、そういう環境を持ったまちづくりの要望が出されております。もちろん市当局もその方向で団地の中にも特別な委員会を立ち上げて検討しています。

○教育施策推進主査（川合 隆典） 今委員長がおっしゃいましたように、住み替え支援ということで、市長部局で2年ほど前から取り組んでおります。特に、北広島団地は敷地が広いので、高齢になりますと除雪などが大変で維持するのも難しくなっています。家を空けてマンションや市外に転居して空き家になっている所があります。そういう所を利用していただけないかということで、住み替え支援をしています。このような支援に実効性が出てくると活気づくのではないかということで、そのように取り組んでいます。

○委員長（村山 邦彦） 有り難いことですね。まちづくりの問題は幅広くて、いろいろな側面がありますが、その他にご意見等はございませんか。

○教育委員（麻生 敏子） 財政上のことですが、統合によって2校が減少すると何らかのかたちで学校教育費の節減につながると思います。統合の際によく耳にするのは、他の市町村では財政的な理由で統合をしなければならないということがありますが、北広島市ではそういうことが理由にはなっていませんので、是非統合によって学校教育費が節減された部分を市内の子どもたちの教育条件の整備充実のために回していただければと思います。こうしたことによって、多くの市民の方の統合に対する理解を深めることができるのではないかと思います。

○委員長（村山 邦彦） 麻生委員から大きな提言がなされておりますが、いかがでしょうか。

○教育委員（長谷川 しづ） 学校がそれぞれに抱える問題がいろいろとあると思います。そういうふうにしていただくと有り難いと思います。

○教育委員（石井 雅恵） 私もそう思います。

○教育長（白崎 三千年） 議会でも取り上げられておまして、市としての負担分を1校にどれだけかけているのかという話がありましたが、予算をつけているものがそのままこちらに回せるかどうかというと、難しいと思います。説明会の中でも多く出されています。

○教育委員（麻生 敏子） 是非要望していただきたいと思います。

○管理部長(小菅 敏博) 正に財政的なことで言いますと、地域の説明会でも出ておりました。

今、教育委員の皆さんからお話が出ていましたが、少なくとも教育的な観点から配慮した教育環境を整えるための費用が必要だというご意見だと思いますので、私どもしっかりと受け止めて市長部局へ要望をしていきたいと思っております。教育委員の皆様のご意見についても伝えていきたいと思っております。

○委員長(村山 邦彦) 統合の考え方が教育委員会で決まった段階で、事務局のほうからお願いしましょう。

何かご意見等はございませんか。

(意見等特になし)

特になさいますので、これまで説明会で出されていたご意見や要望をもとに昨年度、私どもがまとめました考え方の是非についていろいろな角度から協議してきたと思っております。今後の日程ですが、この後17日に定例の教育委員会がありますが、できれば一つの結論を出せば良いと思っておりますが、17日ですと今から期間が短いので17日の後に開かれる教育委員会でその場を設定したら良いのではないかと思います。皆様個人的に意見をまとめる時間が必要です。それを17日以降の教育委員会でお諮りしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(意見等特になし)

では、日程が決まり次第ご連絡いただきたいと思います。

○委員長(村山 邦彦) 全体をとおして、何かご質問等はございませんか。

(質疑等特になし)

○委員長(村山 邦彦) 質疑なしと認めます。